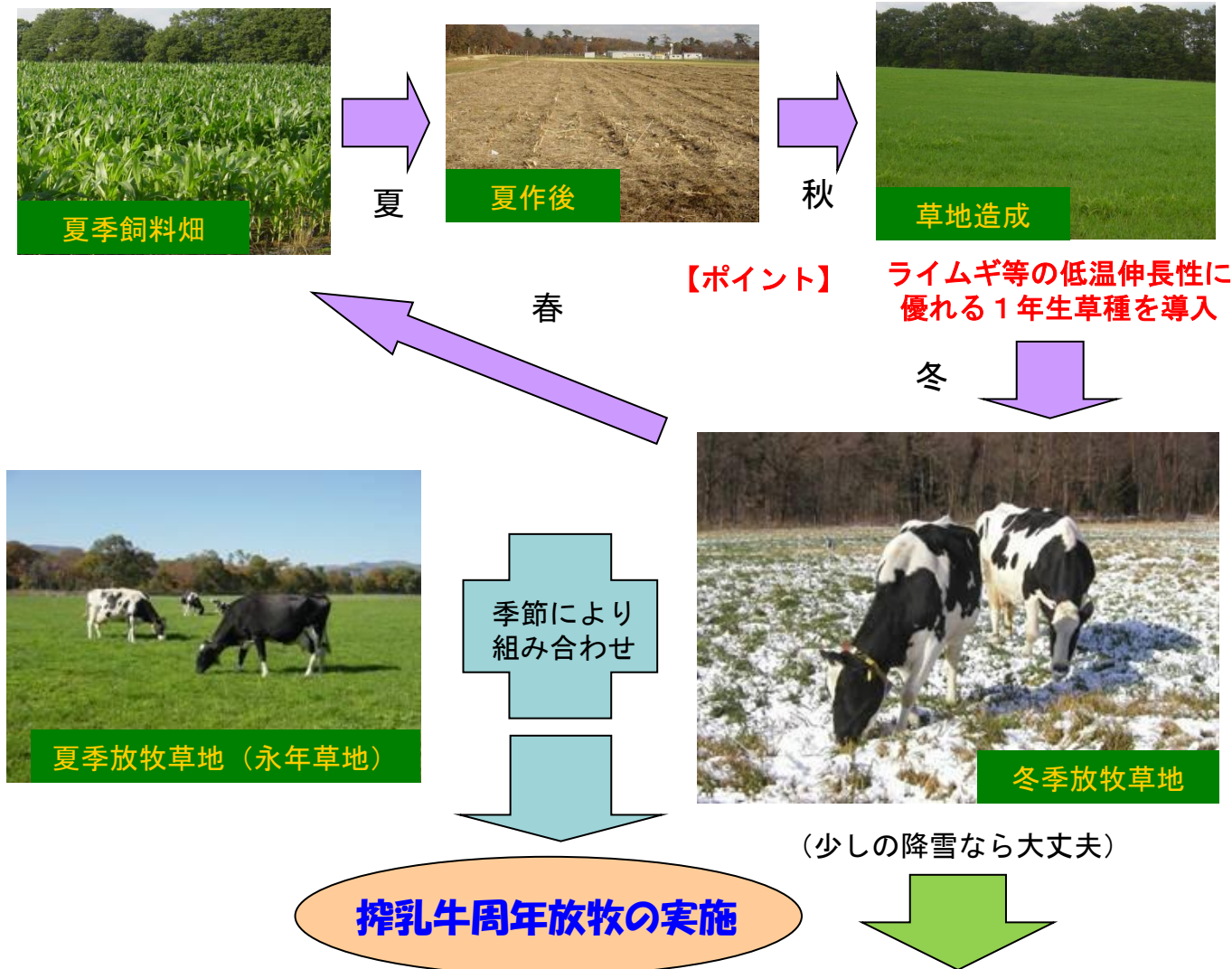


夏季飼料作物後に造成したライムギ・イタリアンライグラス草地において搾乳牛の冬季放牧が可能

目的と特徴

- 特徴ある放牧牛乳を周年生産するために、搾乳牛冬季放牧に適した草地を造成しました。
- 夏作の飼料作物収穫後の圃場に、ライムギとイタリアンライグラスを9月下旬に混播し、11月下旬から放牧を開始、電気牧柵を使用し1日1牧区ずつ転牧利用して春まで放牧します。
- この草地の栄養価は比較的安定しており、半日放牧等の制限放牧により冬期間に同じ草地を2回放牧し、1頭1日0.4a程度の面積で4.6kgの乾物摂取が期待できます。



【ポイント】

ライムギ等の低温伸長性に
優れる1年生草種を導入

- 自給飼料基盤の周年活用により粗飼料自給率の向上
- 放牧牛乳の周年生産

制限放牧で冬季2回放牧により、1頭あたり0.4a/日程の草地で4.6kgDM/頭/日の乾物摂取が可能です

成果

- 11月下旬より1日1牧区ずつ放牧を開始し、1月下旬から初めの牧区に戻って2回目の放牧を開始します。
- ライムギとイタリアンライグラスの組み合わせで、収量品質が安定します。
- 冬期間平均で、1頭あたり0.4a程の草地で4.6kgDM/頭/回の乾物摂取が可能です。
- 乳脂中βカロテン含有量が多い放牧牛乳が生産可能です。

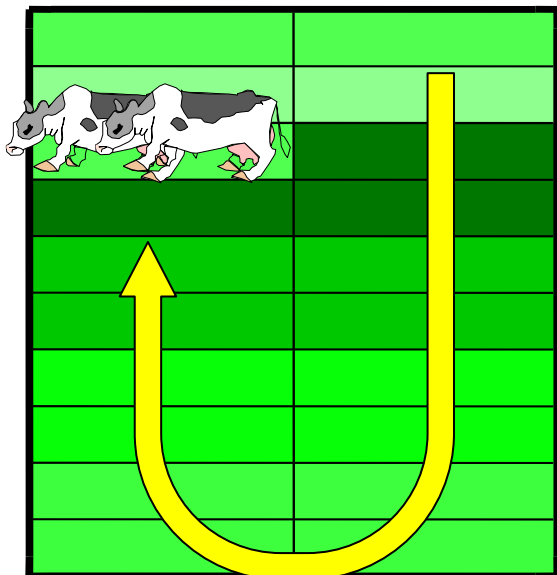


図1. 冬季輪換放牧法

小牧区として毎日転牧し、冬期間に2巡させる。半日間の制限放牧。

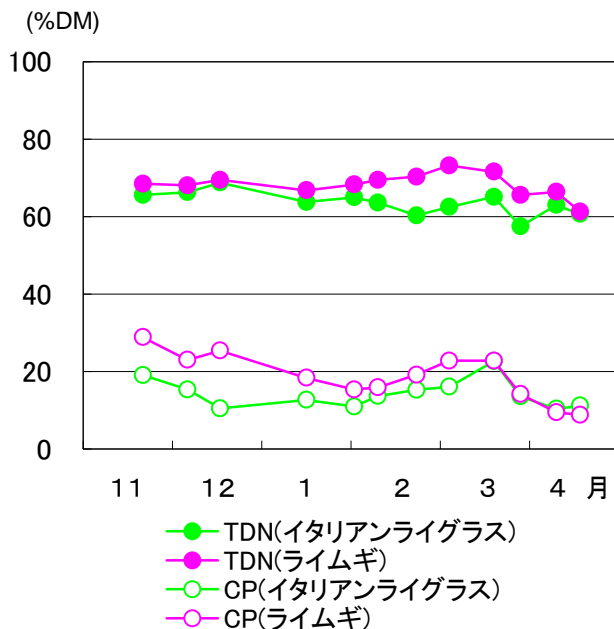


図2. ライムギとイタリアンライグラスのTDN (可消化養分総量)率とCP (粗蛋白質)率

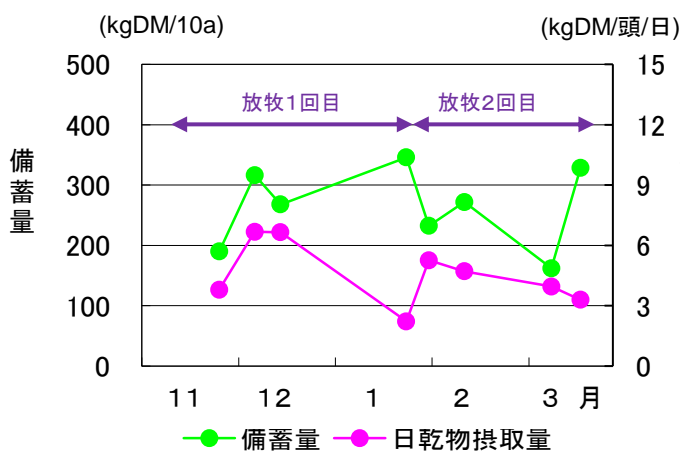


図3. ライムギとイタリアンライグラス混播草地の備蓄量と日乾物摂取量

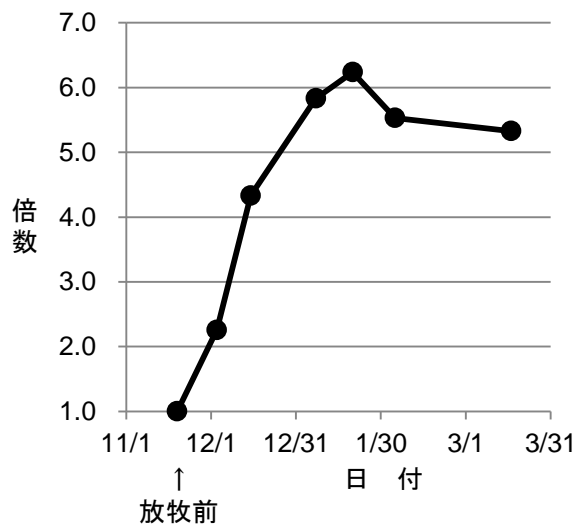


図4. 放牧後の乳脂中βカロテン含有量の増加 (放牧前に対する倍数)

対象作物・家畜、普及対象

- ・ライムギ、イタリアンライグラス、酪農、関東以南（無積雪地域）

対象農家

- ・春～秋季に放牧酪農を実施しており、冬季放牧にも取り組みたい経営
- ・冬季放牧地として利用可能な夏季飼料作畑または草地のある経営

必要な道具

- ・プラウ、ブロードキャスター等草地管理用機械、電気牧柵、
- ・冬季放牧地で飲水を供給できる水槽

関連HP (成果情報)

<http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2007/nilgs07-06.html>

その他

- ・放牧地の草量に応じ、放牧時間や牛舎内での飼料給与量を調節する必要があります。